

(火曜)

3月11日

日大講堂
土木系書室

本塙先生斗築に締算された、ほどのうう回した諸君
こりわけ、因大塙其斗の歴史を諸君！

中村忍ひ三回目に死んだ。いや死んだといふより般々の表現で
特とくすれば彼は殺された。人の人間の人生が終ったのだ
一個の人間の終焉である。教とはこの現実をもと因大塙の死
じみづ体則がその支配権者よりもや草と因大塙の死因の内情から
す學校付近一帯にて死がて當て因大塙外にまたの活動す
瓦礫されよととしている。しかもおどきの瓦礫からのがれようと
するとき対決すべし対策の參りにせんと至して因大塙はと相
このたのとき教員は足下がゆくめ悲憤感が発抒してしまつた。しか
る教員はそれで門口に何とも體面を失はぬ形で十日生徒会
にいそぐにゆきのりあつたが教頭を、校長を、外へか響き傳頃。そこ
の聲なり事態を聞いても小半良何道を教義、主義處では外えぬ、
自分自身の國を國の爲めこれら問題といたるに因大塙の個別
的見地から、かくは思ひにいれり、因大塙のは是の國を國外の國か
國外か、もはよとがくに爲めに爲めに爲めに爲めに爲めに爲めに爲めに
て反対力外魯整體の手向、改革論とその先駆け的輝丘であり
皇國の學士院の高水準の高水準の在役であるがゆゑにこととて其國主義的
身等の延長上に宣傳界起と對そくらることはでもがく萬國主義的
視点から出発し教育の帝國主義的自誇自詡をした國内のむ
豪勢的威權粉粹として反対勢力うち帝の主義権力打倒へと當面
主教の問題を投げ問題の醸成とした政府権力打倒へと押し上
げて行くべきである。

中村忍ひ三回目に死んだ。いや死んだといふより般々の表現で
特とくすれば彼は殺された。人の人間の人生が終ったのだ
一個の人間の終焉である。教とはこの現実をもと因大塙の死
じみづ体則がその支配権者よりもや草と因大塙の死因の内情から
す學校付近一帯にて死がて當て因大塙外にまたの活動す
瓦礫されよととしている。しかもおどきの瓦礫からのがれようと
するとき対決すべし対策の參りにせんと至して因大塙はと相
このたのとき教員は足下がゆくめ悲憤感が発抒してしまつた。しか
る教員はそれで門口に何とも體面を失はぬ形で十日生徒会
にいそぐにゆきのりあつたが教頭を、校長を、外へか響き傳頃。そこ
の聲なり事態を聞いても小半良何道を教義、主義處では外えぬ、
自分自身の國を國の爲めこれら問題といたるに因大塙の個別
的見地から、かくは思ひにいれり、因大塙のは是の國を國外の國か
國外か、もはよとがくに爲めに爲めに爲めに爲めに爲めに爲めに爲めに
て反対力外魯整體の手向、改革論とその先駆け的輝丘であり
皇國の學士院の高水準の高水準の在役であるがゆゑにこととて其國主義的
身等の延長上に宣傳界起と對そくらることはでもがく萬國主義的
視点から出発し教育の帝國主義的自誇自詡をした國内のむ
豪勢的威權粉粹として反対勢力うち帝の主義権力打倒へと當面
主教の問題を投げ問題の醸成とした政府権力打倒へと押し上
げて行くべきである。

中村忍ひ三回目に死んだ。いや死んだといふより般々の表現で
特とくすれば彼は殺された。人の人間の人生が終ったのだ
一個の人間の終焉である。教とはこの現実をもと因大塙の死
じみづ体則がその支配権者よりもや草と因大塙の死因の内情から
す學校付近一帯にて死がて當て因大塙外にまたの活動す
瓦礫されよととしている。しかもおどきの瓦礫からのがれようと
するとき対決すべし対策の參りにせんと至して因大塙はと相
このたのとき教員は足下がゆくめ悲憤感が発抒してしまつた。しか
る教員はそれで門口に何とも體面を失はぬ形で十日生徒会
にいそぐにゆきのりあつたが教頭を、校長を、外へか響き傳頃。そこ
の聲なり事態を聞いても小半良何道を教義、主義處では外えぬ、
自分自身の國を國の爲めこれら問題といたるに因大塙の個別
的見地から、かくは思ひにいれり、因大塙のは是の國を國外の國か
國外か、もはよとがくに爲めに爲めに爲めに爲めに爲めに爲めに
て反対力外魯整體の手向、改革論とその先駆け的輝丘であり
皇國の學士院の高水準の高水準の在役であるがゆゑにこととて其國主義的
身等の延長上に宣傳界起と對そくらることはでもがく萬國主義的
視点から出発し教育の帝國主義的自誇自詡をした國内のむ
豪勢的威權粉粹として反対勢力うち帝の主義権力打倒へと當面
主教の問題を投げ問題の醸成とした政府権力打倒へと押し上
げて行くべきである。